

研究課題 大学教育におけるデジタル・コンテンツの利用に関する研究

種別 指定研究

代表者 奥野卓司（社会学部）

研究員 北橋忠広（理工学部）、高田茂樹、武田俊之（情報メディア教育センター）

1. はじめに

各大学での講義に使われているファイルや教材、講義内容のテキスト、音声、映像などをデジタル・アーカイブ化し、各大学館で相互利用したり、学生・一般市民に公開しようとする試みが、私情教、文科省などの国内機関だけでなく、グーグルやアップル社などの企業・非営利機関によって、地球規模で起こっている。

ここには著作権、その二次・三次使用、個人情報の保護、さらには図書館や情報センターなど大学内で研究教育情報を扱う諸機関の連携・融合、大学教育の将来のありようを根底的に問う課題が山積している。しかしながら、近未来にこの方向に各大学が向かって行かざるをえないのは必然であり、我々が、今から大学教育におけるデジタル・コンテンツ利用の多様な方向に関して、将来のよりよき選択のための情報収集と比較検討を行っておくことが急務である。本研究は、この課題に対して、専門家を招いての研究会や、実情の調査によって、一定の提案を行うことが目的である。

以上の目的による研究会を2006年7月31日と2007年3月5日の2回開催した。それぞれの研究会の内容は詳細な報告書としてまとめている。この報告書は学内の関係者に配布している。

第1回研究会はジャーナリストの室謙二氏を講師としてお招きし、「アメリカにおけるe-Learningについて」と題した講演の後、関西学院大学におけるe-Learningの政策について議論をおこなった。

第2回研究会は、積極的に情報技術を活用した授業を本学で実践している高田茂樹（情報メディア教育センター）、柿原正郎（商学部）、安田雅美（法学部）、野田泰史（総合教育研究室）の4名の報告を受けて議論をおこなった。

2. 第1回研究会

第1回研究会は2006年7月31日に開催された。講演の開催概要は以下の通りである。室謙二氏は「本とコンピュータ」編集長を務められ、MITメディアラボの日本への紹介者であるなど、インターネットに造詣の深い、米国バークレー在住の著名なジャーナリストである。

講師： 室謙二氏（ジャーナリスト、米国籍）

演題： アメリカにおけるe-Learningについて

日時： 2006年7月31日（月） 13時から17時

場所： 情報メディア教育センター2階 第1PC教室

室氏の講演の要旨（報告書より抜粋）を末尾に添付する。

3. 第2回研究会

第2回研究会は2007年3月5日に開催された。講演の開催概要は以下の通りである。第2回研究会では、本学において情報技術を教育に活用する先進的な取り組みについて4人の先生方に発表していただいた。

日時： 2007年3月5日(月) 10時30分から14時

場所： 情報メディア教育センター2階 第1PC教室

10:30-11:00 「LMS (WebClass) を用いた授業運営と教材開発」

高田茂樹 (情報メディア教育センター)

11:00-11:30 「専門科目講義における Blog システムの活用」

柿原正郎 (商学部)

11:30-12:00 「Future Prospects of Computer Assisted Language Learning: From CAI, AVC, CBE to CALL and to What?」

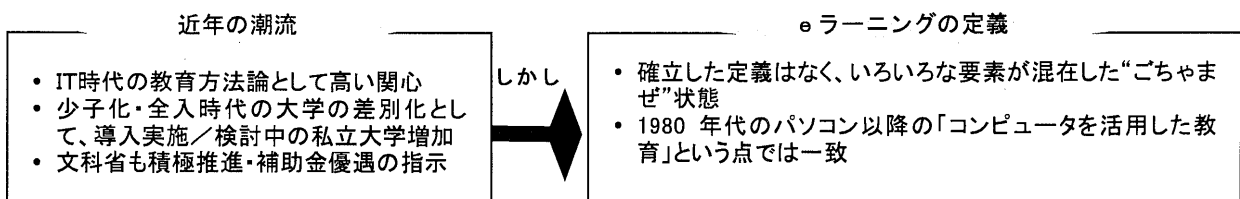
安田雅美 (法学部)

13:00-14:00 「プレゼンテーション集録システムの紹介」

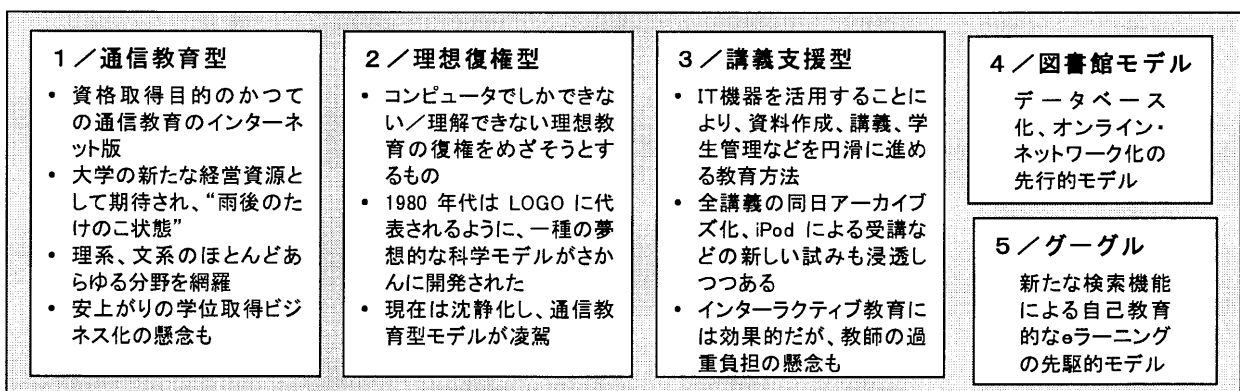
野田泰史 (総合教育研究室)

ディスカッション

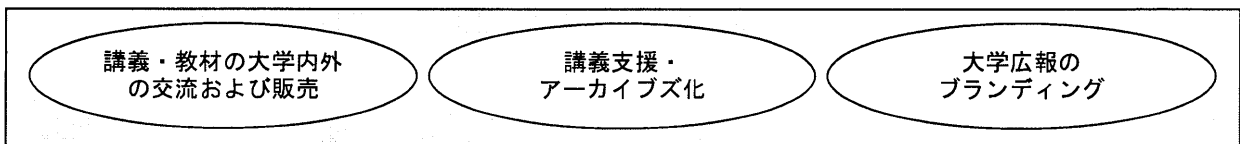
全体サマリー



アメリカにおけるeラーニングの代表的パターン



関学におけるeラーニングの方向性



期待できる効用／展望

解決すべき課題

- **学生のデータ管理の効率化**
 - 出欠管理、レポート評価、成績評価などに効力
- **インターラクティブ性向上など講義支援の強化**
 - 講義中のインターネット活用による理解増進、報償システムによるレスポンス向上など、多様な面での講義支援強化
- **資格取得など知識提供型領域における有効性**
 - 薬学、医学、ファイナンスなど国家試験、資格認定試験のある領域では大きな学習効果
- **多様なマーケティング的手法開発の可能性**
 - バークレー図書館の古地図プロジェクトのように、マルチメディアによるマルチメディア教育の可能性
 - 大学外リソースとの連携により、多様な教育手法開発の可能性
- **特化テーマ、領域の訴求によるブランディング効果**
 - 地域限定、特定テーマなど関学独自のテーマ、方法構築

- ▼ **教えられるもの／教えられないものの整理**
 - eラーニングに適した科目、分野の整理とアーカイブ化の検討
- ▼ **コピーライト、セキュリティなど運用上の問題**
 - 教室外での活用についてのコード策定などの検討
- ▼ **課金システムの明確化**
 - 閲覧フリー／有料化の切り分け
- ▼ **教師の負担の増加／拒否感**
 - 資料作成、講義後の対応の負担感、敬遠感への対応
- ▼ **教師のITリテラシーの向上**
 - 教師の個人的資質の差を解消するトレーニングの必要性
- ▼ **大学内情報インフラ整備**
 - 無線 LAN、ノートパソコンなど最低限度のインフラ整備へ
- ▼ **サポート体制の整備**
 - 教師の力技に依存しないためのサポート体制の必要性

関学におけるeラーニングとは

